

# 検討プロセス・本日の論点について

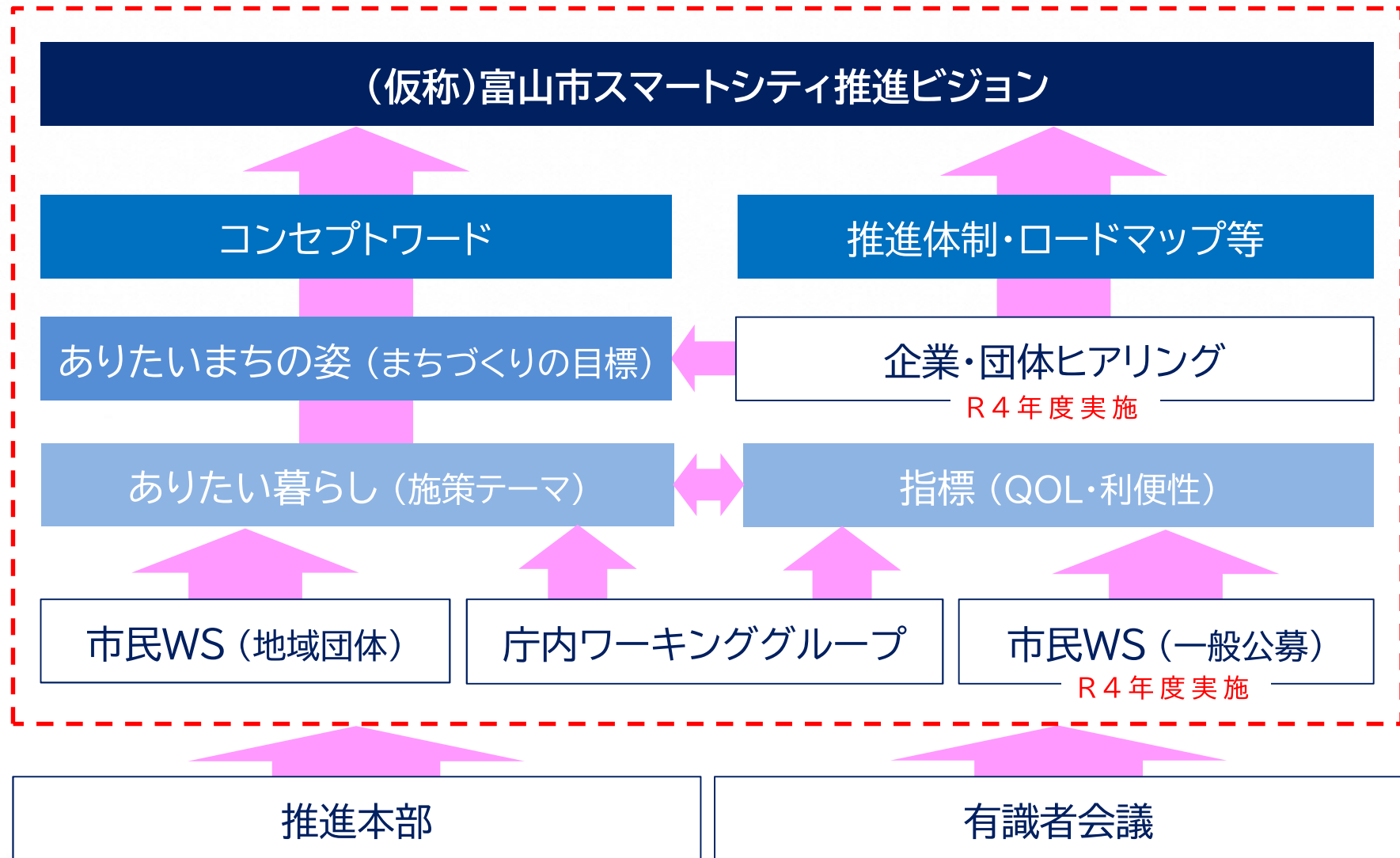
# これまでの検討プロセス

令和3年度

6月 3日	富山市スマートシティ庁内推進本部会議
6～ 8月	庁内ワーキンググループ(調査・検討)
11月 2日	庁内ワーキンググループ(勉強会)
11月 5日	先進地視察(会津若松市)
11月 12日	先進地視察(前橋市)
11月 26日	第1回有識者会議
12月 20日	市民ワークショップ(スケッチラボ会員)
12月 24日	庁内ワーキンググループ(ワークショップ)
1月 16日	市民ワークショップ(地域団体①)
1月 30日	市民ワークショップ(地域団体②) ※延期
2月 18日	第2回有識者会議
3月 末	中間報告

# ビジョン検討プロセス

検討プロセスの全体像



# 富山市スマートシティ推進本部

スマートシティの推進に関する市内推進組織

## 富山市版スマートシティの3つの方向性

### (1)コンパクト&スマート

コンパクトシティ政策を深化し、地域特性に応じた市全体の均衡ある発展を目指す

### (2)市民(利用者)中心主義

サービスを提供する行政や企業の目線ではなく、サービスを利用する市民等の目線で取り組む

### (3)ビジョン・課題フォーカス

ビジョン実現や地域の課題解決という「目的」のため、「手段」としての新技术やデータを活用する

参考 「スマートシティガイドブック」よりスマートシティの3つの基本理念

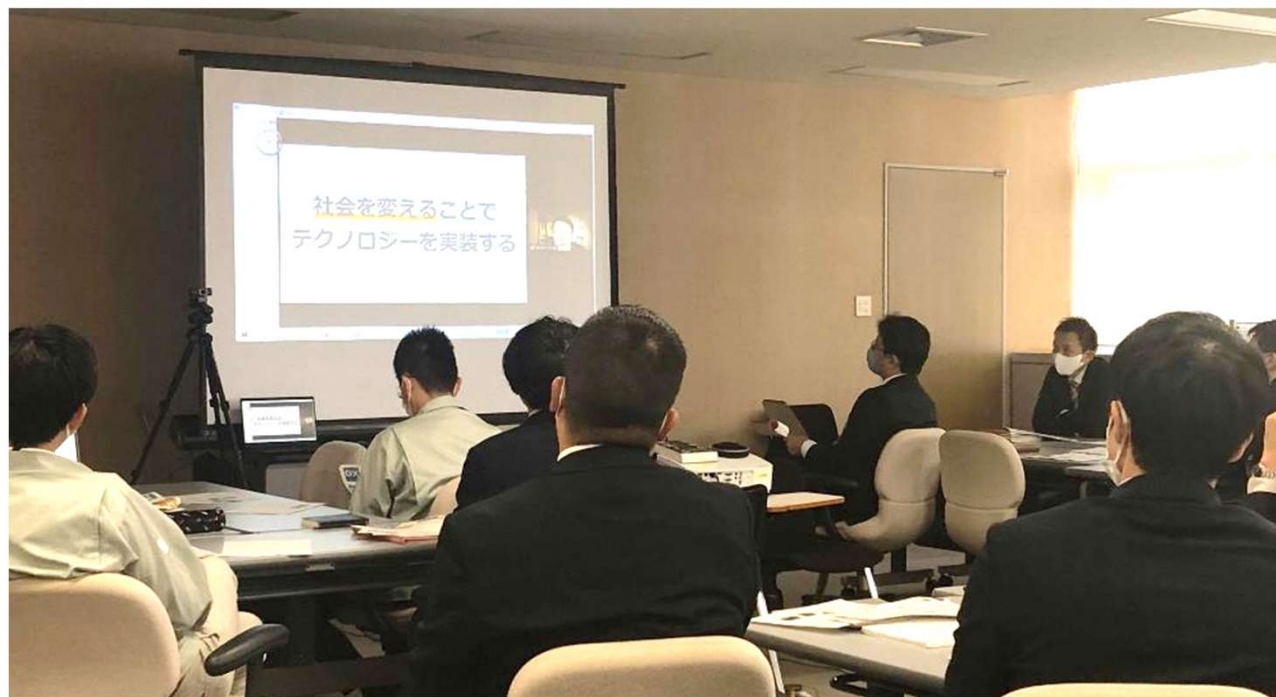
- ・市民(利用者)中心主義
- ・ビジョン・課題フォーカス
- ・分野間・都市間連携の重視

(2021年4月:内閣府等)

# 庁内ワーキンググループ

オンライン勉強会(東京大学 FoundX ディレクター馬田隆明氏)

- 「課題が見つからないこと」が課題
- 「理想の未来」(ビジョン)を描くことで「課題」が見つかる
- 理想と現状のギャップ＝課題
- テクノロジーの社会実装は需要(≒市民ニーズ)が前提





# 庁内ワーキンググループ

ありたい姿や地域課題の調査・検討

- 市民目線の「ありたい姿」(理想の未来)について検討
- 共感を基本として目指すべき「ありたい姿」を特定
- 「ありたい姿」から「地域課題」を特定
- 課題解決策となる技術やサービス等の事例を調査



# 庁内ワーキンググループ

ワークショップ(QOL・今後取り組むべき施策)

- 「市民が向上させたいQOL(生活の質)」についてブレインストーミング
- ブレインストーミング結果から市民ニーズを想定
- 市民ニーズを可視化
- 市が今後10年で取り組むべき施策について部局ごとに検討



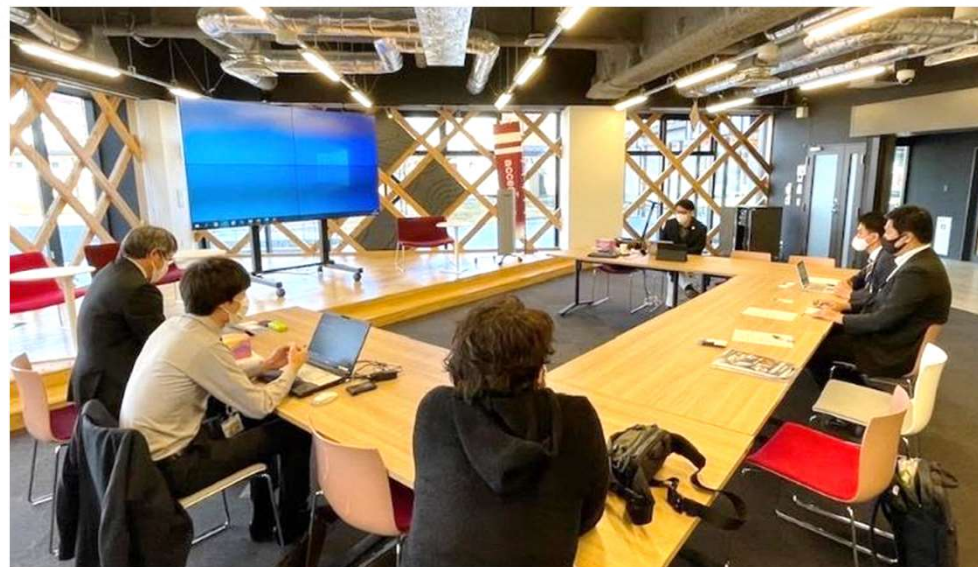


# 先進地視察

会津若松市・前橋市

- 「オプトイン」(\*)方式によるデータ利活用基盤(会津若松市)
- 「ローカルマネジメント会社」の設立(会津若松市)
- 「まえばしID」による市民サービスの個別最適化(前橋市)
- 民間主導のスマートシティ(前橋市)

(\*)合意の上での(個人)データ提供。対義語は「オプトアウト」





# 有識者会議

スマートシティの専門家・実務者等で構成する委員からの助言

- コンパクトシティとスマートシティの融合に期待(森本座長)
- 市民の声を聞き、ビジョンに反映することが重要(小泉委員)
- 市民との合意形成のためにデータを使うことが重要(下山委員)
- 小さくとも変化を見せ、市民の参加意欲を喚起すべき(土肥委員)







# 市民ワークショップ

地域団体（地域のSWOT分析・ありたい姿検討）

- 市内の地域団体対象のワークショップ
- 地域ごとのSWOT分析に基づき、地域の「ありたい姿」を検討
- 立場を越えた対話を通じて「ありたい姿」に順位づけ
- 地域が最も大切にしたい「ありたい姿」を選択・共有



# ありたい暮らし／現状／課題

R4. 1月末現在における整理

【WS】市民ワークショップでの意見  
 【WG】庁内ワーキンググループ会議  
 【委員】有識者会議の委員の意見

ありたい暮らし	現状	課題
<p><b>①便利な暮らし</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>公共交通、自転車、徒歩が便利【WS・WG】</li> <li>免許がなくても自動車が使え(自動運転)【WG】</li> <li>天候に左右されず便利に移動【WG】</li> <li>必要な情報をどこでも入手【WG】</li> <li>行政の各種手続きが簡単【WS・WG】</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>公共交通軸沿線に都市機能を集中</li> <li>依然として自動車の利用率が高い状況</li> <li>高齢化の進展により、車を運転しづらい市民は増加</li> <li>冬季天候で移動が制約</li> <li>行政手続き等の硬直化</li> <li>公的なサービスは土日が休み</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>公共交通軸沿線以外の移動利便性や生活サービスへのアクセス改善【委員】</li> <li>行政サービス分野にデジタル化可能な領域が十分に導入されていない【委員】</li> </ul>
<p><b>②安心・安全で健康な暮らし</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>災害時に迅速に避難、行動【WS・WG】</li> <li>災害や防犯情報がすぐにくる【WS】</li> <li>除雪の心配がない【WS・WG】</li> <li>地域ぐるみで見守りがあり、事件・事故がない【WS・WG】</li> <li>一人暮らしの高齢者も心配がない【WS】</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>避難の支援を必要とする災害時要援護者は増加する見込み</li> <li>市民の災害等への危機感が高いと言えない</li> <li>精度の高い災害情報を把握し、更新する仕組みがない</li> <li>2025年に団塊の世代が後期高齢者</li> <li>医療・介護の担い手は大幅な増加が見込めない状況</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>地域の災害リスクの可視化</li> <li>災害時の警戒情報を伝達と避難行動を喚起する仕組み</li> <li>個人情報適正化管理を前提としたきめの細かい地域の見守り</li> <li>遠隔からでも様々な見守りに対応できる仕組み</li> </ul>



# ありたい暮らし／現状／課題

R4. 1月末現在における整理

【WS】市民ワークショップでの意見  
 【WG】庁内ワーキンググループ会議  
 【委員】有識者会議の委員の意見

ありたい暮らし	現状	課題
<p><b>③誇れるものがある暮らし</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• まちの「おススメ」が情報発信【WS】</li> <li>• 伝統文化が継承され、学ぶ機会もある【WS】</li> <li>• 地域資源が交流で活用されている【WS・WG】</li> <li>• 美しい自然が維持されている【WS・WG】</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 地域資源の掘り起こし、活用が十分でない</li> <li>• 少子高齢化により、地域固有の伝統や文化、美しい自然の維持・保全の担い手が減少</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 地域の魅力の活用・発信への支援充実やツールの普及</li> <li>• 地域の魅力を維持するための多様な主体が関与できる機会の拡大</li> </ul>
<p><b>④心が豊かでワクワクできる暮らし</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• 文化・スポーツに親しむ機会が豊富【WS・WG】</li> <li>• 魅力ある店舗、居心地の良い場が集積【WS・WG】</li> <li>• 個性的・魅力的な空間（お洒落な空間）がある【WS】</li> <li>• 世代を問わずチャレンジができる【WS・WG】</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 広域的に利用される施設や店舗等は分散的な立地にならざるを得ない</li> <li>• チャレンジしてみたいと思っても、どこから手をつければよいか分からない</li> <li>• 個人での新規事業に対して、資金調達が難しい</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>• リアルを体験するための地域モビリティ確保、バーチャル体験のためのデジタルサービスの確保</li> <li>• チャレンジに対する相談相手に容易にアクセスできたり、賛同する支援者を誰もが募ることができる仕組み</li> </ul>

# ありたい暮らし／現状／課題

R4. 1月末現在における整理

【WS】市民ワークショップでの意見  
 【WG】庁内ワーキンググループ会議  
 【委員】有識者会議の委員の意見

ありたい暮らし	現状	課題
<p><b>⑤子どもの笑顔があふれる暮らし</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>多様な学ぶ機会・場がある【WS】</li> <li>自由に遊べる場所が豊富【WG】</li> <li>学校からイジメがなくなる【WG】</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>GIGAスクール構想は、学校によって取組に格差【委員】</li> <li>学校の統廃合の進展</li> <li>安全管理を重視するため公園利用の制約が多い</li> <li>いじめ問題が表面化しないことがある</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>学校間の教育内容の格差はなくしつつ、各学校の特性を活かした運営</li> <li>子どもの見守りを前提に自由に遊べる空間づくり</li> <li>子どもが相談しやすいツールの普及</li> </ul>
<p><b>⑥若い世代の活気に満ちた暮らし</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>まちの良さが理解されている【WS】</li> <li>進学で転出した子どもたちが戻ってくる【WS】</li> <li>魅力的な就業機会の選択肢が豊富【WS・WG】</li> <li>移住者や起業者が多い【WS】</li> <li>ライフスタイルによって暮らし方の選択ができる【WG】</li> <li>子育て支援の選択肢があり、働きやすい【WG】</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>進学や就業が若い世代の転出の契機</li> <li>就業機会の選択肢の多さから、大都市圏等に転出した若い世代は、そのまま定着する傾向</li> <li>就業人口は減少で推移し、地域経済の規模は縮小の可能性</li> <li>共働き世帯が多く、少子化においても保育ニーズは高止まり</li> <li>子育て支援が保育施設に限定</li> <li>育児の困りごとや悩みごとを子育て中の母同士で語りあえる機会が少ない</li> <li>テレワークの仕組みはオフィスワーカーに限定</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>郷土愛、地域の魅力を子どもの頃から発見・認識できる機会の充実</li> <li>産業活動における生産性向上（付加価値の向上や効率化）</li> <li>多様な就業機会は地域から生まれる仕組み（起業化支援）</li> <li>市内で気づかれていない魅力的な企業の情報発信</li> <li>勤務地の特性等に応じて子ども預けることができる保育サービス</li> <li>働き方の多様化や一時的な預かり需要に対応した保育サービスの充実</li> <li>ものづくり系の企業でも導入可能なテレワーク等の仕組み【委員】</li> </ul>

# ありたい暮らし／現状／課題

R4. 1月末現在における整理

【WS】市民ワークショップでの意見  
 【WG】庁内ワーキンググループ会議  
 【●●】有識者会議の●●委員の意見

ありたい暮らし	現状	課題
<p><b>⑦人と人のつながりがある暮らし</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>困ったときにすぐ相談できる、情報が得られる【WS・WG】</li> <li>多世代・多国籍の交流が活発【WS・WG】</li> <li>住民間の支え合い、助け合いがある【WS・WG】</li> <li>自殺者0のまち【WG】</li> <li>他者への配慮が当たり前【WG】</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>地域のつながりの希薄化、核家族化、親の共働きの増加などにより、町内会等のコミュニティが衰退</li> <li>支援を必要とする人ほど、必要な情報にアクセスできない</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>地縁によらない（地理的制約を超えた）多様で柔軟な人的なつながりをつくる仕組み</li> <li>デジタル時代に対応した地域コミュニティの構築</li> <li>支援を必要とする人に情報が届きやすい仕組み</li> </ul>
<p><b>⑧地域の魅力を分かちあい支えあえる暮らし</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>農林業がかっこいい職業になっている【WS】</li> <li>農林業が新技術で効率化【委員】</li> <li>中山間地域の暮らし(生活サービス)が支えられている【WS】</li> <li>中山間地域と都市部が補完的な関係を構築できている【委員】</li> <li>水資源利用が最適化【委員】</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>大山、八尾、山田、細入地域など中山間地域が多い地域では人口減少・高齢化が顕著</li> <li>従来から従事者が高齢化している第1次産業は、担い手不足が更に深刻化する見込み</li> <li>中山間地域の多面的な価値を貨幣化する手法が未発達(都市部が「ただ乗り」的になっている)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>農林業の稼ぐ力の向上(生産性の向上、付加価値の向上、自ら価格を付けることができる仕組み)</li> <li>低密度、低需要な地域において、モビリティや生活サービスを提供できる仕組み</li> <li>中山間地域を都市部住民(その恩恵を享受)が支える仕組み</li> </ul>

# ありたい暮らし／現状／課題

R4. 1月末現在における整理

【WS】市民ワークショップでの意見  
 【WG】庁内ワーキンググループ会議  
 【委員】有識者会議の委員の意見

ありたい暮らし	現状	課題
<p><b>⑨産学官民の共創が生まれる暮らし</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>市民一人ひとりが意見を出し合っ てまちをつくる【WG】</li> <li>様々なテーマを議論しながら、市 民や企業が自発的・主体的に参加 し、発信できる場がある【委員】</li> <li>「市民がまちづくりの主人公」と の意識が当たり前になっている 【委員】</li> <li>市民が、データや技術を活用して、 地域課題を解決【委員】</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>コンパクトなまちづくりは行 政主導型で推進</li> <li>市政やまちづくりへの参画に 消極的な市民が多い</li> <li>解決できそうなことが変わら ないため参加しないという意 識が市民に存在【委員】</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>地域の将来像の検討や課題解決 に関する機会の充実（特に女 性や子育て世代）</li> <li>市民参加の成果のフィードバッ ク（参加した結果、迅速に実現 するなど）【委員】</li> <li>学校教育における地域課題の可 視化や解決のプロセスを実践的 に学べる機会の充実【委員】</li> </ul>



# 本日の論点

委員の皆さまにご意見をいただきたいこと

## ① ビジョンの中間報告（案）について

## ② 検討プロセスにおける課題感について

- EBP M（証拠に基づく政策立案）の実践にあたり、地域固有の「指標」や「収集するデータ」について、具体的にどのようなプロセスで決定していけば良いか。また、継続する仕組みをどのように構築すべきか。
- どのように日進月歩の新技术との接点（情報等）をつくり、費用対効果を見極めつつ、新たなサービスの実証や導入を進めていくべきか。
- どのように地域全体でデジタルに対するリテラシー（理解度）を高め、また、高度なデジタル人材育成を進めていくべきか。